

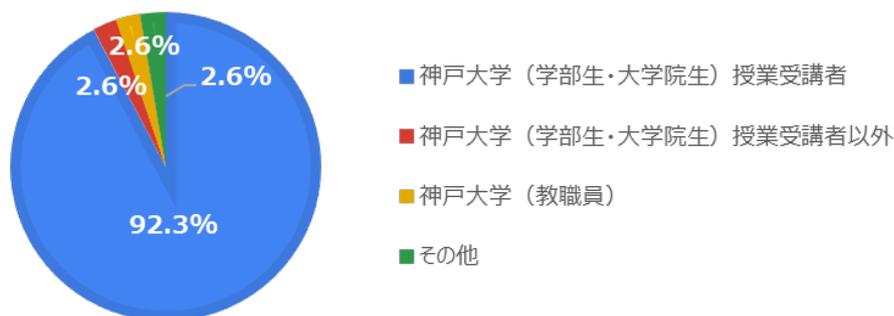
インクルーシブキャンパス・デイズ 2025

第1回 SOGIESC から多様な性・ジェンダーを考える

【アンケート結果】

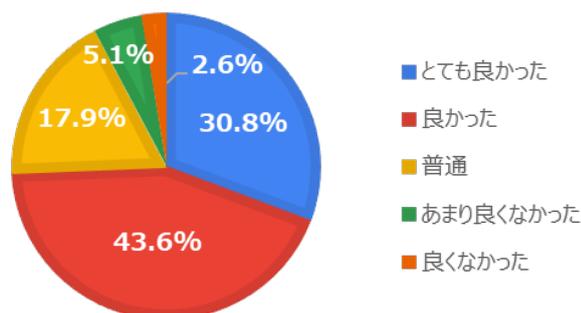
問1 あなた自身についてお聞かせください。 該当するものにチェックしてください。

◆ 39 件の回答



問2 上映された映画についてお聞かせください。 該当するものをお選びください。

◆ 39 件の回答



問3 映画の内容で印象に残ったことなど、ご意見・ご感想を自由にご記入ください。

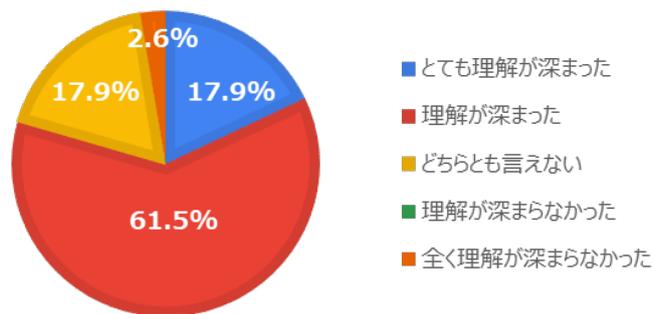
◆ 19 件の回答

- ・性別にかかわらず自分らしくした結果が出演者の今であると思った。
- ・I am here. の受け取り方
- ・自分で自分の生き方を決めるのが 21 世紀の重要な考え方という言葉が刺さりました。
- ・強く生きてほしいという言葉が心に残った。
- ・課題に書いた
- ・映画の中にも多くのトランスジェンダーの方々が出演されていて、自分の身の回りにもいるのではないかと考えさせられました。言葉選びを気にせずに表現すると、ただ自分の身体的な性と性自認が異なっただけなのに、そうでない人より非常に多額のお金を払わなければ同じように生活できない、手術を望まないにしてもマジョリティであるなら容易く理解してもらえる感覚に比べると理解してもらいにくい苦勞を感じました。
- ・セクシャリティーに関連して生きづらさ等を感じている人々の思っていること考えていることを知ることが出来て非常に有意義でした。

- ・興味深かった。
- ・LGBTQの方々は様々な社会的背景を持った人たちが多くいることを知った。
- ・実際の人の声、というのは印象が強い
- ・LGBTQの人々が、数多くの苦勞を乗り越えて、今は楽しく人生を過ごしていたことが印象にのこった。
- ・トランスジェンダーの方々の生きにくさがよくわかった
- ・制度云々の問題はもちろん、少数派ゆえの当事者の中での葛藤がとても大きい問題であることがうかがえた。
- ・「家が途絶える」という言葉が刺さった。もし僕が親の立場だったら認められないかもしれない。
- ・私も工藤先生が言及されていた通りセクシャルマイノリティ当事者も、強いジェンダー規範に囚われているのが印象的であった。いわゆる女性らしい長髪と化粧をを行うということは、自分らしいといいつつ、型にはめているような気がした。
- ・当事者の生の声が聞けて大変参考になった。
- ・「小さな穴を開け、大きく広げる」といった表現があったと思います。マイノリティの社会運動でマジョリティの反発を抑えるための現実的な手法として描かれていましたが、こうした戦略への向き合い方でマイノリティ側に分断がもたらされたこと、それにより傷ついた人たちがいたこと、そしてジェンダーアイデンティティにおいてはマジョリティ属性を持つ自分はそんな分断や葛藤に無知であっても特に困らず生活していたこと、ここに落差を感じました。マジョリティ側が問い返されないこと、しわ寄せがマイノリティ側に押し付けられることは、他の領域における差別でも同じでしょうし、理不尽に思えます。ただ、社会を変えるだけの政治的な力を持つにはより多くが集まる必要があるのも事実です。着地点を探す努力と対話をどれだけ尽くせるかになるのかなと思いつつ、そうしたマイノリティ側の負担は、マジョリティ側が少しでも変化を許容できれば減るのになあと思いました。他方、映画では登場した方々それぞれの個別性も描かれていました。世の中1人1人考えが違うので当然と言えば当然ですし、マジョリティが抱きがちなステレオタイプに監督が迎合しなかったところ、それぞれの方の声を良し悪しの評価をせずそのまま届けようとする姿勢が感じられてよかったです。
- ・トランスジェンダーの方の「人生は考えた通りにはいかないけど思った通りにはいく」という言葉がとても印象に残っています。
- ・トランスジェンダーの方々とは重みも全く違うけど、私もくだらないことだけど、悩むこともあるのでこの言葉を胸に頑張りたいです。
- ・トランスジェンダーの当事者の方の生の声が聞けて良かったです。

問4 トークセッションについてお聞かせください。 該当するものをお選びください。

◆ 39 件の回答



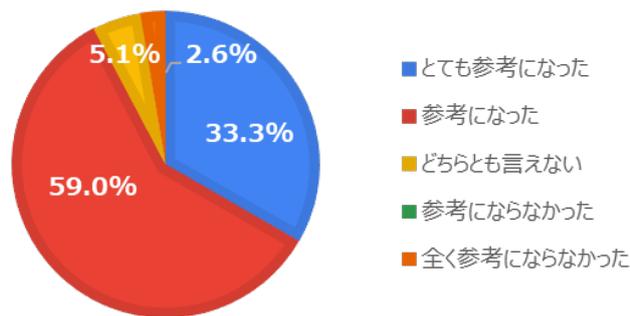
問5 トークセッションで印象に残ったことなど、ご意見・ご感想を自由にご記入ください。

◆ 14 件の回答

- ・ 私たちの存在を認めてほしいではなく、私たちはここにいるんだ、だから君たちが慣れる という考え方はとても印象的であった。
- ・ カミングアウトは終わりが無いのだなと感じました。
- ・ トランスジェンダー当事者の方々もジェンダー規範が考えの基にあること、私たちは制度に合わせた見た目にならなければいけない場面が少なからずあることについてのお話が印象に残りました。
- ・ 直接聞いてよかった。
- ・ ジェンダーについてのカミングアウトは一回で終わりではなく、そこからが大変だと知った。
- ・ 自分が少数派であることを認識し、苦境に立つ覚悟と気概が何より重要である
- ・ 就活について、メイクや服装も身体の一部であり、社会のシステムに合わせなければいけないことに関するお話が印象に残り、勝手にマジョリティだと思っている自分にも当てはまることで、社会という大きなものに自分が含まれることに関して不思議な感覚が残った。また、社会の中での自分の立場が変わり続けることは難しいというお話は私にはなかった感覚だったため、印象に残った。
- ・ I am here の考察が印象に残った。
- ・ I am here と海外の事例とを絡ませたセッションが興味深かった。
- ・ 社会全体が強いジェンダー規範によって縛られており、たとえそのようなしがらみから逃れようとしたものも例外ではないということが印象に残った。
- ・ ジェンダーは政治的な問題という言葉が印象に残った。私も法律もジェンダー規範を作るものだと思う。例えば結婚や扶養、男女や主婦を想定しての法律がある。その中で、私達は規範を刷り込まれるのだと感じた。
- ・ 勉強になりました。
- ・ どなたかが「ユースの人のメンタルヘルスの困難さ、自死の多さ」に触れていたのが気になりました。映画に登場した方は当たり前ですがそれぞれ生き残ることができた方であり、生きる知恵や力強さ、賢さを感じさせる言葉もありましたが、生き残れなかった方々も多くいるはずで、映画に異論を挟むものではありませんが、死者が登場しない以上「生存バイアス」は避けられないように思います。私は今回が初めてで他の回の内容は分かりませんが、より困難な状況にある方が生き残れる、助けを求められるような切り口もお聞きしたかったです。
- ・ 酔った大学生の電車での話が印象に残りました。そんなふうによめようと言える人になりたいです。

問6 プログラム全体についてお聞かせください。 該当するものをお選びください。

◆ 39 件の回答



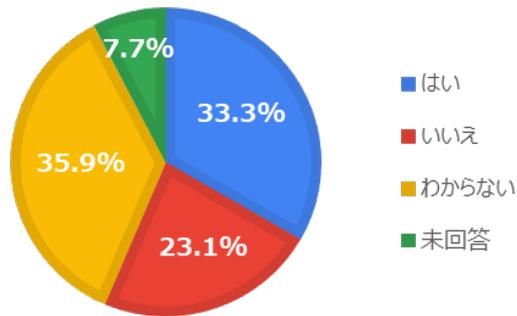
問7 プログラム全体へのご意見・ご感想をお聞かせください。

◆ 9 件の回答

- ・身近なジェンダーと向き合い、捉え直すきっかけになった。
- ・トランスジェンダーだけでなくもっと広い範囲のテーマを期待していた
- ・映画の後、トークセッションで先生方のご意見を聞くことができ良かったと思います。
- ・視点を変えるきっかけになった。
- ・トークセッションがもう少し長くてもいいかもしれないと感じた。
- ・また、開催してほしいです。
- ・とても勉強になりました。
- ・30 年ほど前に神戸大学に入学し、6 年間お世話になりました（法学部→国際協力研究科で、たぶんアレキサンダー先生の授業も受けました。先生がお元気そうでとても嬉しかったです）。本日名前が出ていた「ガイドライン」の内容は知りませんが、私が入学した当時、同様のものはなかったように記憶しています。阪神淡路大震災の直後だったのでトラウマには多少関心はありましたが、「誰もが安心して過ごせる大学とは？」と大学の在り方に視線を向けることはありませんでした。また、性的マイノリティを自認する友達がいましたが、彼らの安心が脅かされる可能性があることに想像が及ぶこともなかったと思います。属性を問わず生きやすい社会になるよう、神戸大学には率先した取り組みを期待したいです。一般に開放していただき感謝しています。
- ・様々な部門でのジェンダー観が聞けてよかったです。

問8 今後、本日のような多様な性・ジェンダーのイベントを企画したら参加したいと思いますか。
該当するものをお選びください。

◆ 36 件の回答



問9 今後、イベントで取り上げてほしい内容があればご記入ください。

◆ 3 件の回答

- ・今回はトランスジェンダーの方々にフォーカスしたものでしたが、他のセクシュアルマイノリティの方々についてもお話を聞いてみたいです。
- ・社会による性役割の押し付けなど
- ・トランスジェンダー以外の、LGBT+の当事者が、抱える社会の障害に関して

問10 任意（以下、個人情報を神戸大学 ICHC センタージェンダー平等推進部門の担当者に提供することになります。）

今後、多様な性・ジェンダーに関するイベントのお知らせを希望しますか？

◆ 26 件の回答

